

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

July 2020 vol.75

July						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

◆ 吉田城

所在地：豊橋市今橋町

交通：豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」停 北 200m

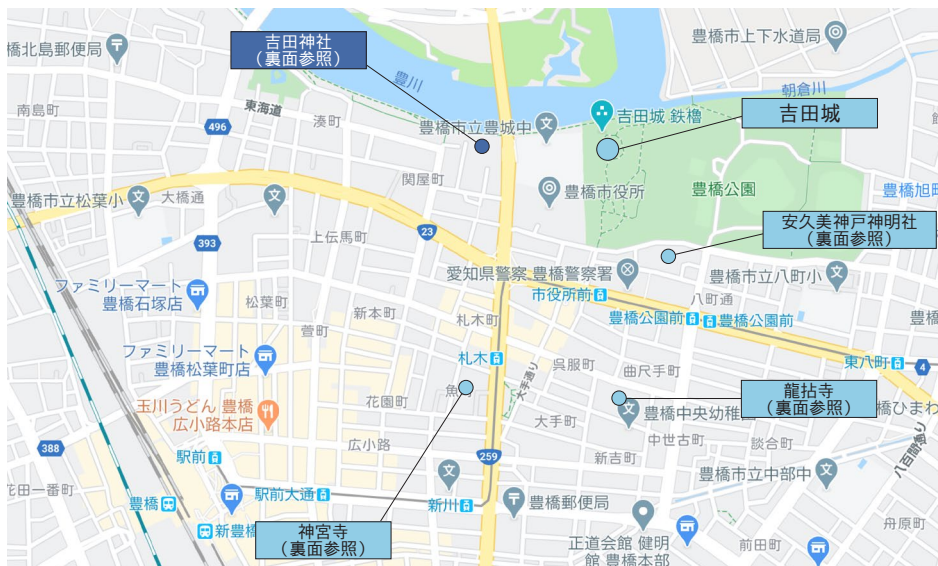
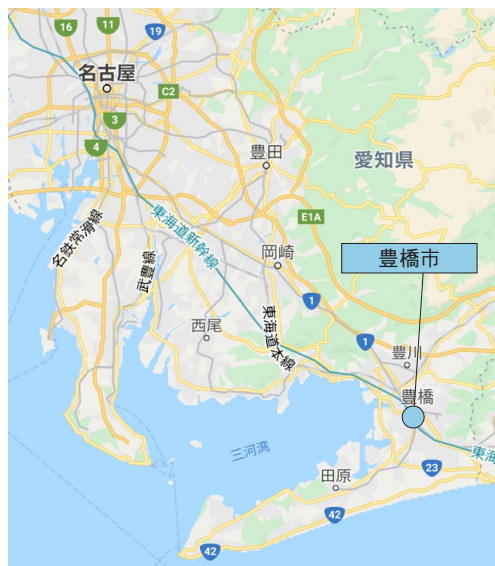
吉田城は、永正2（1505）年に、駿河の今川成親が、西三河の松平氏、渥美の戸田氏の東三河進出を警戒して、牧野古白に命じて築城されたと言われ、戦国時代末期には、豊臣秀吉が関東に移封した徳川家康を警戒し、最も信頼の篤い池田輝政を配置します。その後、関ヶ原の戦いに勝利した家康が天下を握ると、重要な防衛拠点の1つとして、有能な譜代大名が城主に選ばれるようになります。明治維新後には、版籍奉還により明治政府下の豊橋城となり、太平洋戦争後には、三の丸内部が豊橋公園として整備され、本丸には、池田輝政が構築した石垣の上に建てられた三重櫓「鉄櫓」が模擬再建されています。

吉田城は築城以来、幾度となく地震を経験していますが、特に被害が大きかったのは宝永4（1707）年の宝永地震です。宝永地震の被害の記録は、城の修復を願い出るために被害箇所を書き上げた『御城御破損所御伺絵図』に、詳細に残されています。絵図によれば、吉田城では、本丸御殿、二の丸御殿は残らず大破、櫓や楼門など、その他の建物群も大破し、蔵や長屋が置かれていた三の丸でも、多くの建物が大破となるなど、壊滅的な被害を受けています。当時、天守としての位置づけをもたされていた本丸の鉄櫓も、「戌亥の方へ傾き大破」との記載があります。また、城下の吉田宿の被害も甚大で、当時の総戸数1,011戸に対して、全壊323戸、半壊262戸、破損426戸と、すべての家で被害が出ていたことになり、11名が命を落としています。

また、嘉永7（1854）年の安政地震についても『三河国吉田城地震之節破損所之覚』に被害の記録が残されています。絵図によれば安政地震でも、石垣、櫓、塀などに被害が発生しており、本丸の鉄櫓は「此櫓半潰」の被害となっています。なお、吉田宿の被害は、全潰128軒、半潰154軒、土蔵全潰96、土蔵半潰143となっており、150年前と比べて町の状況の変化はありますが、宝永地震に比べれば、被害は小さかったようです。

内閣府がまとめた『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』の1707宝永地震（http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1707_houeijishin）「第5章 城郭被害図にみる宝永地震」には、宝永地震における全国の城郭の被害がまとめられており、修復の手続きについての考察があります。また、吉田城の宝永地震による被害と修復願絵図についての解説もあります。

過去の地震の被害の記録は、揺れの大きさを推定するための貴重な情報となります。その中でも、城郭の修復に関係する記録は、公的な資料として、その有力な材料となります。東日本大震災後に開催された、『内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会』では、被害の記録を参考にした宝永地震、安政地震の震度分布図がまとめられています。（中間とりまとめ参考資料集 p.3、http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/model/pdf/chukan_sankou2.pdf）過去の地震の被害について学んでから、城郭を訪れてみるのも良いかもしれません。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



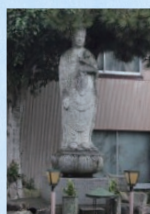
◆吉田城の周辺には…

● 龍拈寺（観音像）

所在地：豊橋市新吉町

交通：豊橋鉄道市内線「札木」停 東 約 400m

昭和 19(1944)年昭和東南海地震によって犠牲となった豊橋高女 23 名と愛知実修高女 4 名の学徒を悼む観音像が昭和 32 (1957) 年に建立されました。台座正面には「豊橋高等女学校動員学徒殉難之碑」と記されています。

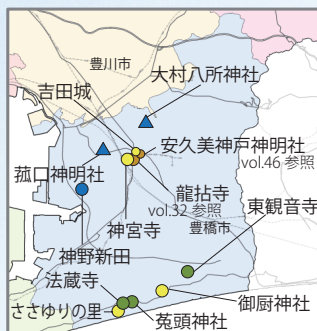


● 安久美神戸神明社

所在地：豊橋市新吉町

交通：豊橋鉄道市内線「豊橋公園前」停 すぐ

昭和 19 (1944) 年昭和東南海地震の様子として、「社務所は東へ傾き、戸障子も所々外れ、壁土が大分落下」していたこと、「石燈籠は大半倒れて」いたこと、しかし、本殿や社殿には損傷がなかったことが、安久美神戸神明社千年誌に記されています。



● 神宮寺（願かけ地蔵）

所在地：豊橋市魚町神宮寺 交通：豊橋鉄道市内線「札木」停 南 約 150m

嘉永 7 (1854) 年安政東海地震の際、神宮寺の地蔵菩薩が幼女の身代わりとなって命を救ったという話から、信仰を集めるようになりました。このため、願かけ地蔵ともよばれています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 豊橋祇園祭

豊橋祇園祭の始まりは、鎌倉時代の初め頃と言われ、吉田神社（地図は表面参照）の神事として行われました。疫病払いの祈願として火を使った思霊放逐が行われ、手筒花火の放揚に結びつきました。

現代では、前夜祭を含めて 3 日間に及ぶ、夏の一大風物詩となっており、金曜日の宵祭りでは、吉田神社で大筒の神前放揚と手筒花火が、土曜日の前夜祭では、豊川の河川敷で打上げ・仕掛け花火と川手筒が披露されます。日曜日の本祭では、古式ゆかしいいでたちをした氏子衆の行列が吉田神社を出発して氏子八町を廻る、神輿の渡御（頼朝行列）が催されます。（2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため打上花火大会は中止）



豊橋祇園祭 HP より

あいちの農産物

愛知県では、明治時代に尾張地域を中心にマクワウリが生産され、東三河地域では温室メロンの試作が始まっていました。その後、施設園芸の普及とともにメロンの栽培が拡大し、田原市、豊橋市、豊川市を中心に大産地が形成され、年間の収穫量は 8,500t で全国第 6 位となっています。



愛知県園芸農産課 HP より

中でも、果物の王様と呼ばれるマスクメロンは、温室で徹底した栽培管理が行われ、1 株に 1 果のみ結実させて育てられています。

● ブレイクタイム ●

♪ のんほいパーク（豊橋総合動植物公園）

のんほいパークは、アフリカ園、オーストラリア園などの動物園ゾーンを中心に、大温室、庭園からなる植物園ゾーン、大観覧車のある遊園地ゾーン、生物の進化と郷土の自然を紹介する自然史博物館からなる総合公園です。動物園ゾーンでは、キリンやシマウマなどが野生に近い環境で飼育、展示されており、その生態を見学できます。東海三県で唯一のレッサーパンダも見られます。また、自然史博物館には、約 6,700 万年前の恐竜エドモントサウルスの実物化石も展示されています。



のんほいパーク HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020 年 7 月）

